

「押忍」発行に寄せて

関西大学應援団OB千成会 会長 田中 義昭



応援団OB長柄会の皆様には、初めてご挨拶させて頂きます。

平素より千成会へのご高配に心から感謝申し上げます。殊に、千成会50周年では格別のご支援とご協力に預かり、同根兄弟組織として厚情と深謝申し上げます。

私は、一部応援団第44代幹事長を務めていました田中義昭、リーダー部出身でございます。現役時代は、二部応援団室には先輩に連れられて以来、度々お邪魔しておりました。一部応援団とは違い、歴史を感じさせた団室には憧れを抱いていました。その度々の訪問から、大江正則先輩や児島弘治先輩を知り、

同期生では由井靖彦君、後藤光政君、山田登君や朴木幸男君達と親しくなりました。後輩諸君では何度も応援等で一緒した、林田嘉憲君、橋高俊彦君が特に印象深くあります。

この寄稿によせて、現役時代のある懐かしい思い出を記します。

それは、私が応援を「サボ」って喜ばれた話です。

4年生幹部の秋、日生球場ナイターでの「関々戦」第2試合目でした。小生はデータと重なり、応援を無断欠席しました。応援幹部は大騒ぎだったそうです。この為「口笛学歌」斎唱のリーダーがいなくなり、急遽森山団長からの依頼で由井君が「口笛学歌」のリーダーを振る事になりました。由井君は現在でも、ナイターでのリーダーは気持ち良かったと述懐しています。

このような不出来な私が、昨年度より千成会の第7代会長を仰せつかりました。歴代会長に比べ、浅学非才ではありますが長柄会の皆様を始め、関係各位の温かいお力添えのもと、この重責を果たして参りたく存じますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

さて、千成会は、さる7月4日に創立50周年記念を開催させて頂きました。その折には、

母校関係各位や、長柄会を始めとする学内外関係者凡そ430名、そして現役を加えた出席者は520余名に上ることとなりました。更にまた厳しい経済環境の中を温かいご協賛をも頂き、お蔭様にて盛大に開催出来ました事を紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

当日、何よりの感激は、故片岡恒次郎先輩、故原田憲先輩ご遺族のご列席でした。その上、友好応援団OB会として、はるばる東京より駆けつけて下さった、中央大学応援団OB・OG会や、同志社大学、立命館大学、近畿大学そして永年のライバル、関西学院大学応援団OB会の方々のご参加を頂いての盛儀は、歴代応援団活動、そして応援団OB会としての厚い交流の賜物と見えます。

これを糧に、今後も「応援団綱領」を下に、母校発展と現役育成に尽力して参りますので、長柄会の皆様からの旧に倍してのご交説を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、長柄会大谷啓二会長を始めとする役員、会員皆様、そして長柄会の一層のご発展、ご活躍を衷心より祈念申し上げまして私のご挨拶とさせていただきます。「ごつあんでした」

平成21年8月中浣 残暑の日識す

天神祭船渡御 関大丸に乗船して

「皆さん! おすわり下さーい! 工夫なくなりますので、どうぞお掛けになつてご覧ください!」と、御伽衆の着席を促す声で、一度は席に着くものの、「関大丸の皆さん! 大阪締めお願いしまーす!」と、掛け声がかかる度に、威勢よく大阪締めの挨拶が交わされ、興奮が高まり、いつの間にかほとんどの方が起立。そしてまた、御伽衆の声掛けで一同着席。そんな勢いと団結感溢れる関西大学の船、「関大丸」に乗船させて頂きました!

2006年の第1回目出航から、本年で4回目となりました。毎年天候に恵まれ、熱中症になりそうな程の暑さを、もっと熱い祭りで吹き飛ばしてきた関大丸でしたが、当日はなんと朝から豪雨。大阪北部では大雨・洪水警報が発令され、各所の屋外イベントは中止が相次ぎ、天神祭りの船渡御も花火も中止せざるを得ないので…という不安でいっぱいになりました。

夕刻、「行くだけ行こう!」と船着場へ到着して驚きました。関大丸も他の船も、撤退することなく、着々と準備が進められていたのです。出航時間が近づくにつれて、雨もどんどん弱くなり、出発時間には止みました。よほど行いが良いのだろうということをしかりですが、大阪人の天神祭への意気込みに感銘を受けました。

関大丸へ乗り込むと、正面には日清のチキンラーメン、左手には大阪大学、右手には京都産業大学。一部応援団第87代鈴木団長の指揮で、雨上がりを祝うかのように学歌斎唱。「飛翔橋」から南へ向けて出航。例年より30分程早くスタートしたため、空はまだ少し青く、雨のお陰で涼しく心地よい風が吹いており、名物の鰯(はもの)の湯引きの入ったお弁当を頂きながらの缶ビールは、絶品でした。

さて、お腹も満たされたところで、長柄会による演舞演奏もスタート、チアリーディングサークル「CLAIRES」の華やかなダンス、長柄会OB吹奏楽団によるアンサンブル、朴木先生によるアルトサックスのソロ、と続きます。

日も暮れて、船の提灯がより明るく照らされ、キラキラと輝く川の水面が、行き交う船との大阪締めで、力強く揺さぶられます。打ち上げ花火で盛り上がりは最高潮へ。そこへ、長柄会による演舞がさらに拍車をかけます。

馬渕先輩の豪快な応援歌、高先輩による気品溢れる学生歌。私も関大マグマの指揮をとさせていただきました。

「暑い夏は、美味しい料理とお酒を飲んで、沢山はしゃいで汗をかいて、よく寝ると、夏バテの防止になります。」と、御伽衆。再び、ダンスと音楽で祭りは続きます。客席も、大阪締めで手を真っ赤にする方、歌

う方、踊る方、川岸や橋の上の人に手を振る方、それぞれ酔いしれて楽しんでおられました。私も、この日のために準備してきた、スザーフォンのソロと楽器回転のパフォーマンスを披露させて頂きました。スザーナで低音楽器でウケるかどうか心配ではありましたが、「もっかい楽器グルグル回して!」と客席からお声をかけて頂き、ついつい調子に乗ってアンコールにお応え(笑)手前味噌の出演の立場でありながら、大いに楽しめました。

まだまだ盛り上がりたいというところで、着岸。もちろん最後は逍遙歌。石原先輩の雄大な指揮で、声高らかに斎唱。大川の流れとともに皆でゆらゆらと逍遙し家路についてゆくのでありました。

第61代 小中 栄二郎



OBバンド活動報告

メンバー募集中!



揮者を担当していたためほとんどフルートを吹けませでした)、なんとか演奏できるようにはりましたが、本当にあつという間の4年間でした。

そして大学を卒業し就職してからは、まったく楽器に触れない日々を送っていました。そんな中、昨年の長柄会忘年会にて第25代松本先輩から「フルート貸してやるから吹いてみろ」と言われ、なんなく了承し(今思えば、楽器を始めたときも、今回も、あいまいな感じから始まった気がします。)「OBバンド」に参加させていただくことになりました。

10年ぶりに練習をしてみると、またまた驚きと苦戦の連続です。まず音がきっちり出ません、そして指が思うように動いてくれません、何よりも驚いたことは、譜面がすぐに読めなくなってしまっていることです。さまざまな意味で「継続」という言葉の大切さを実感されました。

そのような感じで、練習中は諸先輩方にご迷惑をお掛けしながら「OBバンド」の練習に楽しく参加しています。

私の身の上話はさておき、久しぶりに楽器をしてみたいけど、どうしようか迷っている吹奏楽出身の皆さん、まだまだメンバーは募集中です。いつでも気軽に参加して頂ければ、幸いです。

現在は、大淀コミュニティーセンター(大阪市北区・地下鉄 天神橋筋6丁目駅より徒歩10分)を中心月一度(主に日曜日3時間程度)練習しています。発表の舞台は、年に一度の「長柄会総会」です。

現時点の練習参加メンバー・OB総会参加予定メンバーは以下のとおりです。

練習曲としては、星に願いを ムーンライト・セレナーデ イン・ザ・ムードなどメンバー全

Conductor

末永征男(24代)

Tuba

小中栄二郎(61代)

Tp

松本安雄(25代)

Sax

朴木幸男(22代)

小松豊明(40代)

FL

田所美幸(46代)

比嘉純治(48代)

Tb

中西啓之(45代)

小野千晴(47代)

Dr

古川大介(54代)

Eup

出口健一(25代)

B Guita

梶山俊成(27代)

員ができる比較的吹きやすい曲(懐メロ・ジャズ系)がメインです。

詳しくは 第25代 松本先輩(E-mailアドレス ta5153ke@ares.eonet.ne.jp)までご連絡をよろしくお願い致します。

OB総会での発表を乞うご期待!

第54代 古川 大介



てこれら、「吹奏楽がやりたいか、どうか、頑張れよ」と一言かけて、ゆっくり長柄席に戻られた。これがこの人の始めての出会いである。そう、この人が長柄会にその人ありと言っている第24代団長で関西大学校友会事業部副部長の上符文雄先輩(現長柄会副会長)である。上符文雄先輩は今も人生の師として尊敬と畏敬の念を持って、公私ともども家族ぐるみのお付き合いさせていただいている。

こうして始まった応援団生活。同期は20数名いたが、幹部として残り無事卒団できたのは親衛隊の第27代団長の細見孝吉君、副団長の中嶋喜代治君、親衛隊の梶山俊成君、リーダー部の田林道雄君、松岡森義君、吹奏楽部の大島秀一君、松田茂君、若林秀平君と私の9名となった。この8名の仲間とは今でも年1回酒席を設け杯を傾けることを約束している。

昭和44年以来40年に亘る永いお付き合いを頂いている諸先輩を語ればこの限られた紙面ではとても語り尽くすことは出来るものではない。本当に感謝の一言である。

まさに「人生は人を求めて歩く旅」というが、青春真っ只中、無我夢中で歩んできた二部応援団での生活の中で、素晴らしい先輩・同輩・後輩と出会えたことが現在の自分を形成していることは間違いない。本当に素晴らしい人生の旅をありがとうございました。

第27代 安川數一

新企画コーナー 現役時代の思い出

人生は人を求めて歩く旅

昭和43年春、めでたく関西大学二部法學部に入学。その時の授業料は半期で19,800円、これは卒業するまで据え置きであった。その諸手続きのため3月中旬ごろ天六学舎を訪れた。多くの書類と共に交付された身分証明書を兼ねた学生証、その学籍番号は「2法68-421」これが卒業するまでの関西大学における私の識別番号である。その味気ない識別番号の書かれた学生証を眺めて歩いていると、地下の方から聴こえるトランペットの音色を兼ねた学生課の下階に当たる付近の地下へ、表に掲げてある組織名にも目も触れず、ノックをして入室した。するとそこには相手を威嚇するような鋭い眼光であり、その立たれている姿は一分のスキも無い構えで、今も拳が飛んで来るような気迫が感じられたが、私が必死にプラスバンドの練習を見学したいというと、その印象とは違ってやさしく親切に奥の吹奏樂部練習室に案内していただいた。その二部応援団の方と初めて会話をした方こそ、当時リーダー部2回生で後に第26代団長となられた石原美之先輩(現長柄会幹事長)である。石原美之先輩は高校時代兵庫県を代表するボクシングの選手で輝かしい戦歴の持ち主でこの2回生当時はボクサーの片鱗は身体からにじみでていたのである。石原美之先輩とはこの時以来40年に亘りお付き合いを頂き、先日も奥様同伴でお食事の場を持っていたが、本当に懇意にして頂いている。

その吹奏樂部練習室には数人の方がパート